



九条はらまち

福島県南相馬市「はらまち九条の会」No.211

2013(平成25)年 3月20日(水)発行

<失われた一日> ■2011年3月11日(金)14時46分 **東日本大震災発生** 15時35分頃、南相馬市海岸に**津波到達**。原発事故発生の11日から12日までの最初の日を政府と東電が空費し、初動対策でしくじったことが、その後の深刻化を招く。これが「失われた一日」(吉岡斉 九州大学教授・副学長)といわれている。

憲法講演会、脱原発集会より 九条の会に若い人がいなくても心配ありません!

■■憲法改訂や原発再稼働の動きの中で、各地で開催されている講演会・集会の断片ですが報告です■■



○「憲法」とは、国や政府(権力)を縛るものであり、国民を守るためのものです。国会議員や公務員は「憲法第99条」で憲法を守る義務があり、憲法は勝手に変えられないのが近代憲法の常識です。また、改憲勢力と原発推進勢力は根っ子が全く同じです。改憲勢力と、われわれとのせめぎ合いはこれからです。日本の行く末、我々子孫の運命は、我々の運動とその成果如何にかかっています!

(2月14日、東京・豊島区民センター・「豊島九条の会」主催:福島県九条の会会長吉原泰助先生講演会)

○「九条の会」運動では3つ教訓が生まれた。①良心的な保守の人々とも共同した運動になり、加茂市の小池市政はよい例で「日本一福祉の豊かな町」となっている。②地域に根付いた運動として、地域のいろいろな課題に取り組んでいる。③新しい社会層、脱原発、TPPで農協、医師会なども巻き込んだ「九条の会」に若い人がいない」と嘆きますが、全く心配はありません。戦争を知らないのですから当然です。若い人たちは生まれた時から9条があり、平和は空気になっています。でも、原発の放射能汚染問題のように本当に困ったときは立ち上がります。(2月16日、神奈川県川崎市・「たかつ九条の会」主催:渡辺治さん講演会)



○今回の原発事故による被曝者は、原子力の巨大な国際的機関、たとえばICRP(国際放射線防護委員会・原発推進派)を相手にするようになるものなので、大変厳しい状況です。福島医大の山下俊一教授などはピエロみたいなものです。そういう国際組織では、「福島は終わった」「日本政府の対応は良かった。とてもしょうずに隠した」「大衆をよくだました」と評価されています。小児甲状腺ガンとともに「白血病」にも注意し、半年に一度は血液検査をしてヘモクロビンの減少16か14に減るなどわずかな減少も見逃さないことです。子どもの首のしこりは水腫で心配ないと思います。



(3月3日、東京・国分寺エル・「子どもの本・九条の会」主催:小児科医山田真さん講演会にて)



○もう1台の原子炉も再稼働させない。そのために働く。(大江健三郎)
○この会場には日の丸の旗を持つ方もおり、幅広く「原発はいらない」という支持が広がっていて、大変嬉しく思います。……(澤地久枝)
○去年東京では蚊がいなくなり不気味です。今私は地震のたびに4号機が大丈夫かと大変恐怖に思っています。それにどうして警察は危険人物の私を逮捕しないのか。いつでも逮捕してくれ!(広瀬 隆)
(3月9日、東京・明治公園「つながろうフクシマ! さようなら原発大集合」にて)

▲福島県の学校教育の壊滅的な状況、避難しながら学習している生徒たちのこと、教員の切迫した勤務の様子を壇上から訴える浪江町の中学校教員柴口正武先生。1万5千人の参加者は静かに聞き入っていました。

○2012年5月5日の子どもの日に、日本のすべての原発が停止しました。でも問題は何も起きなかった。「原発が止まると、電気が足りない」「このままでは日本経済はたいへんなことになる」というキャンペーンはそうではなかった。お金の弊害を是正することが、私たち信用金庫の役目です。そんな根底的な問題意識から、原発問題を考え直し、原発のない安心できる社会をつくるため、今後も取り組んでいきます。



(城南信金庫理事長吉原毅さん・3月10日川崎市中原平和公園「原発ゼロへのカウントダウンinかわさき」にて)

